

ドイツ旅行レポート ～歴史と産業～

(1) ミュンヘン・アイゼナハ



埼玉県立本庄高等学校
定時制 教諭 栗原 健

もくじ

1. 本発表について
2. 12月25日(ミュンヘン)
3. 12月26日(ミュンヘン)
4. 12月27日(アイゼナハ)
5. 12月28日(ベルリン)
6. 12月29日(ポツダム)
7. 12月30日(ベルリン)
8. 教材開発
9. まとめ

1. 本発表について

- ・旅程

2019年12月25日～31日（5泊7日）

- ・発表の流れ

旅行記の形式でドイツについて紹介した後、旅行で得た発想をもとに作成した授業教材を示す。

①食べ物と地理歴史 ②産業と環境問題

地図



2. 12月25日(ミュンヘン) ミュンヘン空港 BMW



2. 12月25日(ミュンヘン) 電車を間違えてレーゲンスブルクに



2. 12月25日(ミュンヘン) 電車を間違えてレーゲンスブルクに



2. 12月25日(ミュンヘン) 電車を間違えてレーゲンスブルクに



2. 12月25日(ミュンヘン) レーゲンスブルク旧市街(世界遺産)



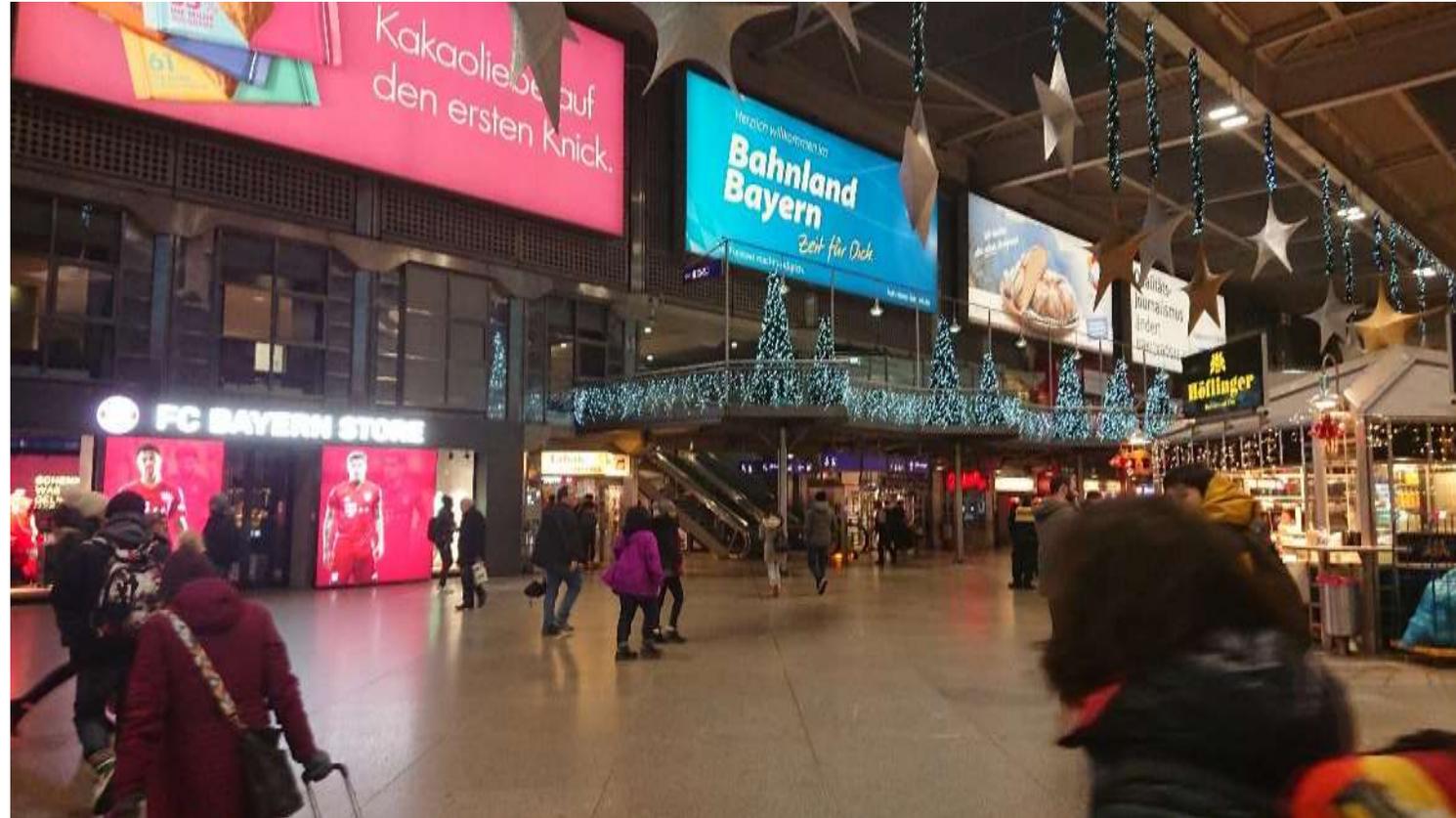
2. 12月25日(ミュンヘン) ミュンヘン市街へ(チェコ鉄道)



2. 12月25日(ミュンヘン) ミュンヘン市街へ(チェコ鉄道)



2. 12月25日(ミュンヘン) ミュンヘン中央駅



2. 12月25日(ミュンヘン) バイエルン料理(HAXE, €17.50)



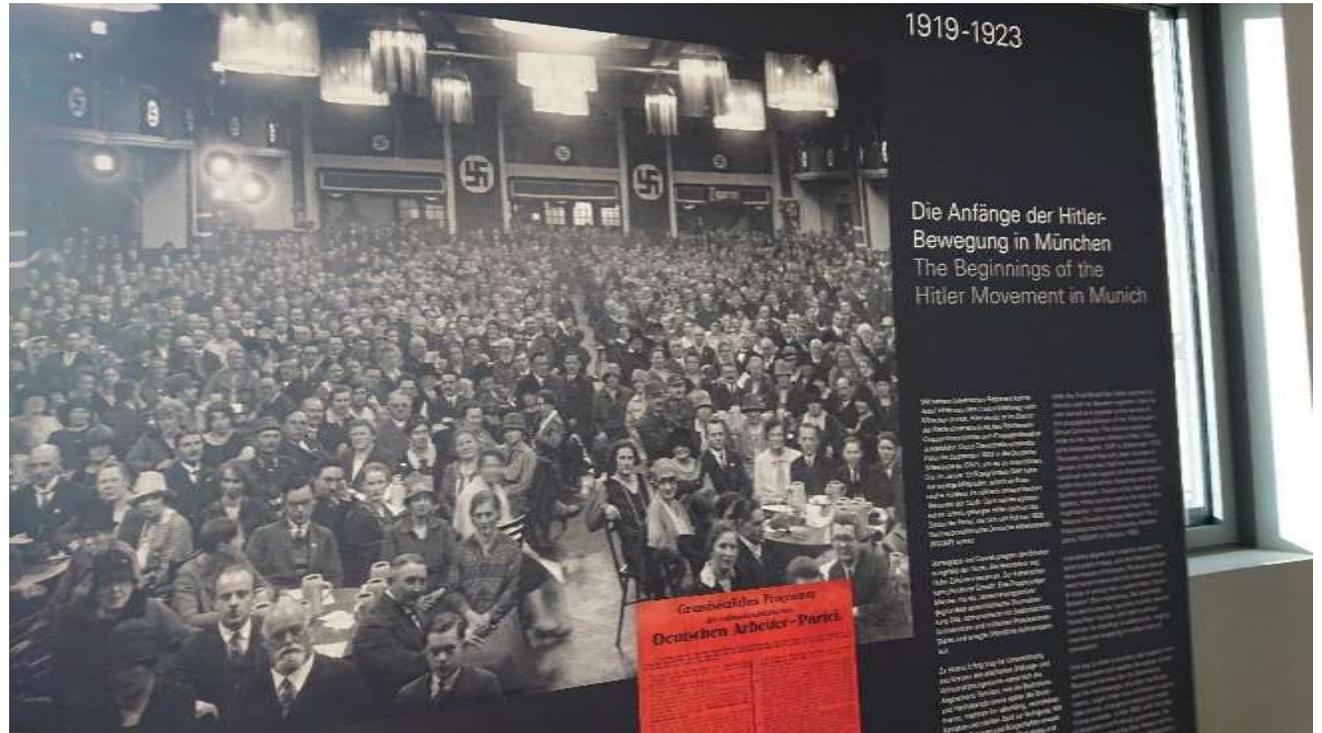
2. 12月25日(ミュンヘン) ヴァイスビア と ヘレス



3. 12月26日(ミュンヘン) 旧ヒトラー総統官邸(現 音楽大学)



3. 12月26日(ミュンヘン) 旧ナチ党本部(現 国家社会主義資料センター)



3. 12月26日(ミュンヘン) ホーフブロイハウス(ビアホール)



3. 12月26日(ミュンヘン) レジデンツ(宮殿)



3. 12月26日(ミュンヘン) イーザル川沿いのドイツ博物館



3. 12月26日(ミュンヘン) ドイツ博物館 Uボート



3. 12月26日(ミュンヘン) アウグスティナー(ビアホール)



3. 12月26日(ミュンヘン) 白ソーセージ(ヴァイスヴルスト)



3. 12月26日(ミュンヘン) 駅の売店の瓶ビール



- ・ミネラルウォーター

(Evian 0.5l)

€1.49 (177.93円)

- ・瓶ビール

(Chiemseer Hell 0.5l)

€1.89 (225.69円)

地図



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) 車窓



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) エアフルト(テューリンゲン州の州都)



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) クレーマー橋 / クリスマスマーケット



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) アイゼナハ 駅のホーム



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) ヴァルトブルク城



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) ヴァルトブルク城からの景色



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) ヴァルトブルク城 歌合戦の大広間



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) ヴァルトブルク城 ルターの部屋



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) バッハの生家



4. 12月27日(アイゼナハ、エアフルト) エアフルト 夕食



ドイツ旅行レポート ～歴史と産業～ (2) ベルリン・ポツダム



埼玉県立本庄高等学校
定時制 教諭 栗原 健

地図



5. 12月28日(ベルリン) ベルリン中央駅



地図



5. 12月28日(ベルリン) ベルリン中央駅



5. 12月28日(ベルリン) ベルリンの壁記録センター 屋上より



5. 12月28日(ベルリン) ベルリンの壁(ベルナウアー通り)



5. 12月28日(ベルリン) ベルリンの壁(ベルナウアー通り)



5. 12月28日(ベルリン) 自然史博物館(フンボルト博物館)



5. 12月28日(ベルリン) アレクサンダー・フォン・フンボルト



5. 12月28日(ベルリン) 自然地理の展示



5. 12月28日(ベルリン) ブラキオザウルスの標本



5. 12月28日(ベルリン) ドイツ連邦議会議事堂



5. 12月28日(ベルリン) ドイツ連邦議会議事堂



5. 12月28日(ベルリン) ブランデンブルク門



地図



参考： 東西分裂時のブランデンブルク門



5. 12月28日(ベルリン) ブランデンブルク門



5. 12月28日(ベルリン) ブランデンブルク門



5. 12月28日(ベルリン) ベルリン 夕食



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ベルリンの気温



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ポツダム中央駅のバス停



6. 12月29日 (ポツダム、ベルリン) サンスーシ宮殿



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ツェツィーリエンホーフ宮殿



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ツェツィーリエnhopf宮殿



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ツェツィーリエンホーフ宮殿周辺



6. 12月29日 (ポツダム、ベルリン) ベルリン市街地



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ジャンダルメンマルクトのクリスマスマーケット



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ジャンダルメンマルクトのクリスマスマーケット



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ジャンダルメンマルクトのクリスマスマーケット



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ジャンダルメンマルクトのクリスマスマーケット



6. 12月29日(ポツダム、ベルリン) ジャンダルメンマルクトのクリスマスマーケット



6. 12月29日 (ポツダム、ベルリン)

Volkswagen Group Forum



7. 12月30日(ベルリン) ベルリン・テーゲル空港



ドイツ旅行レポート ～歴史と産業～ (3)教材開発



埼玉県立本庄高等学校
定時制 教諭 栗原 健

8. 教材開発

- ・今回の旅行から着想を得て、知識構成型ジグソー法をイメージした教材を作成
- ・①は世界史の要素を組み込んだ地理歴史の融合問題
- ・②は産業と環境問題についてオープンに考えさせる地理と公民の融合問題

8. 教材開発

①食べ物と地理歴史

大問①:

「ドイツで親しまれる食材Xについて書かれた3つの資料A・B・Cがある。これをもとに、Xとはなにかを答えなさい。また、Xがドイツで親しまれるようになった経緯・理由をまとめなさい。」

8. 教材開発

① 食べ物と地理歴史



資料A:

ミュンヘンには食材Xの博物館がある(現在は閉館中)。Xの起源を調べると、原産地は南アメリカ大陸の高地であり、インカ帝国の時代にスペイン人がヨーロッパに持ち帰ったとされている。最初は観賞植物と考えられていたが、寒冷な気候でも育つため、飢餓を救う作物としてドイツで栽培が奨励されるようになった。冷涼・少雨で気温の日較差が大きい気候を好む。

【小問A】資料をもとに、Xの原産地を考えなさい。

8. 教材開発

① 食べ物と地理歴史



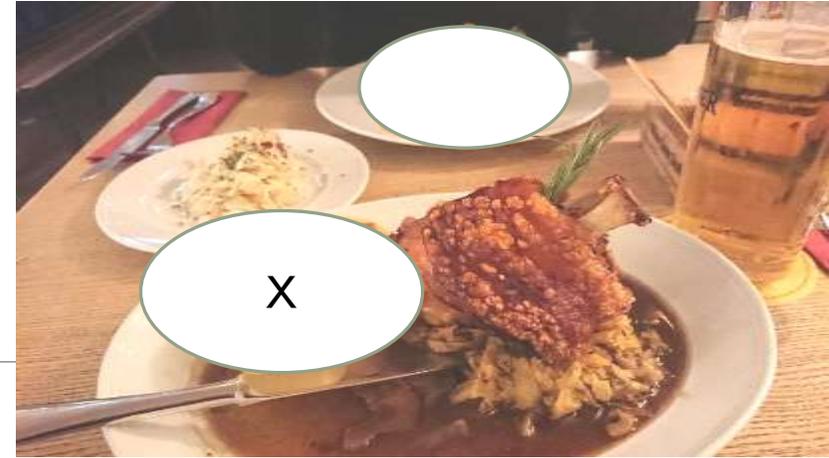
資料B:

18世紀後半、啓蒙専制君主としてプロイセンを強大化させたのがフリードリヒ2世である。サンスーシ宮殿にある彼の墓に行くと、食材Xが供えられている。これは彼が寒冷でやせた土地でも育つXの栽培を奨励したことに由来する。さらにさかのぼると、三十年戦争の際に踏み荒らされる被害の少ないXが農民に受け入れられたことが普及の始まりとされる。

【小問B】プロイセンのあったドイツ北部の土地がやせているのは、約2万年前の地球の気候と関係がある。その理由を考えなさい。

8. 教材開発

① 食べ物と地理歴史



資料C:

ミュンヘンのレストランで地元料理を注文すると、骨付きの豚のすね肉をローストしたものと、付け合わせの食材Xが出てきた。牛や豚などの家畜飼育とXやライ麦などの作物栽培を組み合わせた農業を混合農業といい、ドイツをはじめとする北ヨーロッパで盛んである。

【小問C】家畜飼育と作物栽培を組み合わせることにどのような利点があるか考えなさい。

8. 教材開発

①食べ物と地理歴史

大問①の解答例：

「食材Xはジャガイモで、原産地はアンデス山脈である。厳しい条件でも育つため、かつて氷河に覆われ土地がやせているドイツでは、フリードリヒ2世の治世などにおいて栽培が奨励された。また、ドイツで盛んな混合農業にも適し、伝統料理には欠かせない食材となっている。」

8. 教材開発

②産業と環境問題

大問②:

「ドイツにおける環境問題への取り組みについて書かれた3つの資料A・B・Cを参考にしながら、日本で実施してほしい環境問題への対策を1つ考案しなさい。また、その理由も答えなさい。」

8. 教材開発

②産業と環境問題



資料A:

この写真は、ドイツのテューリンゲン州で見かけた風力発電装置である。ドイツでは、総発電量のうち約2割が風力発電であり、他の再生可能エネルギーも合わせると約4割にもなる(2018)。しかし、2017年の制度変更や関連企業の破たん、地元住民の反対などにより、風力発電設備の新規建設は激減しているという。

【小問A】地元住民はなぜ建設に反対するのか考えなさい。

8. 教材開発

②産業と環境問題



資料B:

この写真は、ドイツのフォルクスワーゲン社が2019年に発表した電気自動車「ID.3」である。EUが自動車メーカーに対してCO2排出量の削減（2030年に21年比で37.5%）を義務づけたこともあり、フォルクスワーゲン社は地球温暖化防止を宣言し、2030年に世界販売の約4割を電気自動車にする方針を掲げている。

【小問B】一方で、電気自動車は環境に優しいとはいえないという指摘もある。その理由を考えなさい。

8. 教材開発

②産業と環境問題



資料C:

写真のように、ドイツではビールやジュースが瓶で販売されているのをよく目にする。ドイツにはデポジット制度があり、ビンには8セント、缶・ペットボトルには25セントの預託金がかかり、店舗に容器を返却すると払い戻される。大型の店舗には容器回収機があり、そこに容器を入れるとレシートが出てきて、レジに持っていくことで払い戻しが受けられる。小さな店舗ではレジに直接容器を持っていく。

【小問C】ビンと缶・ペットボトルで預託金に差を設けている理由を考えなさい。また、日本には容器を回収するしくみとしてどのようなものがあるか考えなさい。

9. まとめ



- ・個人的な旅行であっても、旅のテーマを決め、あらかじめよく調べ、現地へ行って五感で味わい、帰ったら記録にまとめておけば、立派な地域調査になる。
- ・作成した教材のネタは、現地に行ったからこそ思いついたものばかりである。他にも「ブドウの栽培限界より南にあるミュンヘンで、なぜビールがたくさん飲まれるのか」「ナチス・ドイツの遺産をどのように扱うべきか」といったアイディアを教材にできないか検討中。
- ・今後も国内外問わず足を運び、見識を深めたい。